

お知らせ（平成25度）

### 『第14回熊本県腎不全看護研究会』

場所：済生会熊本病院 外来がん治療センター

日時：2014年2月9日（日）

この度は95名のご参加ありがとうございました。『医療安全の人的側面 ～コミュニケーションスキル・アップのノウハウ探し』と題し、熊本大学教育学部附属教育実践センター 教授 吉田道雄先生にご講演いただきました。講演中は先生の話に吸い込まれ、分かりやすく、ユーモアもありとても楽しい時間だった為か、あっという間の2時間でした。

今後も当研究会では年2回の研究会を企画し開催していく予定ですのでご参加をよろしくお願ひいたします。また、ホームページも活動報告などを定期的に掲載していく予定ですので、ご覧ください。

### 『第13回熊本県腎不全看護研究会』



場所：済生会熊本病院 外来がん治療センター

日時：2013年9月8日（日）

まず、特別講演の前に熊本県透析療法指導看護師会より今までの活動報告についての発表があった。これまで、導入期指導パスや指導書作成・透析情報用紙の統一化・熊本市外への出張勉強会などを行ってこられ、研究会や学会等で報告をされている。今後の活動も市内・市外への研修セミナーの開催を予定しているとのことであった。

特別講演は日本腎不全看護学会理事長の水附裕子先生より『透析看護を再考する～チーム医療と看護の役割を考える～』というテーマで透析療法や腎不全看護学会の歴史や今透析看護に求められている事など、透析医療に携わっているスタッフにとってとても興味深かったり、考えさせられる内容だった。参加者も先生の話に引き込まれるように耳を傾けていた。また、講演会後の懇親会でも水附先生と話が出来てとても充実した時間だった。

### 『福岡県CKD看護研究会』



場所：福岡市 九州大学医学部 百年講堂 大ホール

日時：平成25年9月1日10:00～16:00

テーマ：「慢性腎臓病(CKD)看護の実践力を高めよう」

第1回福岡県CKD看護研究会に、世話人2名が参加しました。テーマは、「慢性腎臓病(CKD)看護の実践力を高めよう」で、多くの医療従事者の方が参加されていました。今研究会の第1回目となる午前の

記念講演は、NPO法人日本看護キャリア開発センター 下山節子先生でした。先生のお話は興味深いものばかりでしたが、特に心に残ったのが、病気の事だけでなく、仕事や家族や趣味などの患者さんの生き方を普段の会話で話すこと、その関係の中で、(患者さんは)ひめている思いや吐きたい気持ちを言いたくなるもの・・・という言葉で、あらためて、患者さんの話をよく聴き個別性を尊重することを再認識しました。

午後からは、保存期看護・血液透析看護・腹膜透析看護・腎移植看護の実践報告があり、その中でも宗像医師会病院腎センターは、ひとりの患者さんのCKD保存期から透析維持期に関われるチーム医療が構築されていて、透析維持期の患者さんの看護の経験しかない私は、大変うらやましいと思う発表でした。以上の充実した内容の研修で、機会があれば来年(平成26年9月14日開催予定)も参加したいと思いました。

## 『第58回日本透析医学会学術集会・総会』



場所:福岡

日時:平成25年6月21日～23日

テーマ:「全人力！科学力！透析力！for the people！」

去るH25・6・20～開催された第58回日本透析医学会に参加しましたので、報告する。会場:福岡国際会議場を基点とし他3つの周辺会場で開催された。

本学会のメインテーマ「全人力！科学力！透析力！for the people！」全国各地から数多くの参加があった。

透析医療におけるリスクマネジメントの講演には、皆が聞き入っていました。人間行動は、「人間の特性」「環境」との関数関係によって決定される。人間は物理的空間を感覚で捉えて心理的空間を作り、行動を決める(マッピング)マッピングに失敗すると、行動は期待された範囲を逸脱しヒューマンエラーが発生する。ヒューマンエラーはエラーが誘因要因(環境)に人間特性が関与して引き起こされた結果である。環境を変える努力こそがエラーの抑制につながる。発生した場合は、それを拡大させない努力が必要。医療安全管理者として肝に銘じた時間であった。

看護マネジメントは、チームで質の高い看護の提供のために、看護のマネージャーが必要である。マネジメントとは、経営目標を達成するために人・物・金・情報・時間・組織などを資源として、それらを効率的、経済的に活用することである。自職場において、明確なビジョンを持つことが大切である。チーム医療を行い患者によりよいケア・ケアの提供をするために日々研鑽を重ねていかなければならない。充実した2日間の研修が出来た。

## 『第 24 回 日本サイコネフロジー研究会』



場所:宮崎市 サンホテルフェニックス

日時:平成 25 年 5 月 18 日～19 日

テーマ:「喪失をどう受け止めるか」

内容:参加人数約 300 名、第 24 回日本サイコネフロジー研究会に世話人 4 名参加しました。

2011 年新規導入で 80 歳以上の患者が 18.9%と HD 患者の高齢化が見られるなか、一般演題では高齢患者の透析非導入についての症例も挙げられていました。また、長期透析患者の透析継続見合わせについての症例もあり、その中では本人・家族の思い、透析見合わせとその後の経過において“語り”を音声テープで紹介されておりました。激しくディスカッションされている場面もありましたが、すごく倫理面で難しい問題でもあるため、患者・家族・医師・スタッフなどの信頼関係が大切であり、それには十分話をする、理解しようという思いで聞くということが大事であるということ再認識しました。

ひとつ、一番興味を持ったものが、「笑いヨガ」についてです。笑い療法士という言葉は初めて聞きました。実際に少しの動作ですが「笑いヨガ」を会場で体験でき、緊張感が解けてすこし楽になり、楽しむことができました。

特別講演として松江 青葉クリニック 春木繁一先生、またシンポジウムでは心療内科の先生など、専門の先生方の講演を聞くことができ、とても充実した内容で 2 日間有意義な時間を過ごすことができました。

## 『第 14 回九州腎臓病 QOL 研究会』



場所:アクロス福岡 4 階国際会議場

日時:平成25年4月20日 15:00～18:00

内容:アクロス福岡で開催された、第 14 回九州腎臓病 QOL 研究会に世話人 2 人が参加しました。研究会のテーマは「精神的問題のある患者さんや家族に係わるスタッフの QOL」で、多くの医療従事者の方が参加されておりました。特別講演は、増子記念病院の佐藤久光先生の「モンスターペイシエントに対する関わり方」という興味深い内容で、佐藤先生の過去の体験談を交えながらの講演は、増子記念病院で実際に行っている対策や、「モンスターペイシエントとはいったい何か?」「誰がモンスターペイシエントなのか?」など、看護師としての本質をもう一度考えさせられる内容でした。最近では、透析室の現場でも対応が困難な患者も増えつつあるため、参加者はみんな熱心に耳を傾け、ときには笑いもきかれる講演でした。

後半のミニワークショップでは、3 例の事例報告をもとにコメンテーターの春木繁一先生、荒木志朗先

生、佐藤久光先生を交えてのディスカッションが行われて、参加者も多くの質問をし、とても有意義な3時間を過ごすことができました。